



てくてく レポート[®]

～リポーターが
お伺いします～



リポーター

いしかわ かずえい
石川 和栄さん
(32歳 木本)

国際理解教育推進員は、幼稚園や小学校で、英語を通じた交流で国際理解を深めてもらおうと、市が独自に採用しています。ALT（外国語指導助手）は中学校や高校への英語指導を主な目的として、県から派遣されています。



今月は、国際理解教育推進員とALTの日常生活や日々ごろ思っていることなどを紹介していきたいと思えます。

皆さん、国際理解教育推進員をご存じですか？昨年十月に発行された『広報おおの』で紹介されたメーガ



ンさんです。まだ大野に来て九カ月ですが、どこかで見掛けた方もいると思います。

彼女は、十二の小学校と五つの公立幼稚園を訪れ、英語を教えています。大野市の人について、優しく辛抱強いというイメージを持っています。

今、日本語を勉強していて、まだ少ししか日本語をしゃべれませんが、そんなとき大野市の人は、自分の話す日本語を聞き、そして助けようとしてくれ、その中で自分の日本語がうまくなるそうです。

ではプライベートでは、何をしているのでしょうか？実は彼女は、ヨガと陶芸をしているんです！

ヨガは、仕事後の体を動かすエクササイズとしてもよく、またリラックスができるそうです。陶芸は、

月に一回有終西小学校に行つて習っているそうです。陶芸には本当に驚きです。日本人より日本人らしいかもしれませんね。

さてお次は、大野高校で英語を教えているALTのクリスさんです。



Player's cafe Boston Club にて

彼は、平成十七年の八月から大野

市に住んでいます。日本の生徒の印象はアメリカの生徒よりも、とても勤勉であると思っています。また、彼は大野市に、たくさんの方達がいるそうです。

おすしが好きで、おすし屋さんに行くとなんか自分が興味を持ってくれ、話し掛けてくれます。自分は日本語を話そうとし、彼らは英語を話そうとし、会話は英語&日本語になるんですよ！

今では大野市を、自分の家があり生活があり、自分の故郷だと思っています。彼は、もしアメリカに帰ってしまったら、とても悲しくなるだろうと想像していました。何て素敵な人なんでしょう！もしかしたら僕より大野を愛しているのかもしれないね。

明るい彼でもやはり言語や習慣な

※3月号の「てくてくレポート」で編集誤りがありましたので、おわびし訂正します。

・新井裕希さんの出身校 大野東高校福祉教養科→大野東高校電気科

・質問事項の「あなたの夢は？」についてはその回答に対するリポーターの期待のメッセージです。

どの壁がありましたか、そんな時は、「笑つこととアルコール(笑)が大事だ！」と笑顔で話してくれました。彼にとつてアルコールは、元気の源なのでしょうね。

ではプライベートでは、何をしているのでしょうか？アメリカで、五年間フットボールをしていましたが、今は、福井のA.L.T仲間で結成しているサッカーのチームに入っています。また歌をうたっていて、A.L.Tの仲間とバンドを結成しています。そんな彼は、来年帰る予定だそうです。

最後は、和泉中学校と開成中学校で英語を教えているA.L.Tのレベッカさんです。



彼女は、メーガンさんと同じく大野市に来て九カ月で、イギリスから来ています。

大野市の人については、親しみが

あつて親切で思いやりがあると思っているそうです。車庫に行くとき、見掛けた人が英語で声を掛けてきてくれ、また自分は日本語を話すようです。

中学生に英語を教えるときに思うことは、内気でありまた礼儀正しすぎる部分があると感じています。例えば何か間違つたことをしたとき、「ごつした方がいい」とか「ごつしない方がいい」とか周りの友達が教えてあげなかつたりすることにイギリスとは違いがあるようです。

そんな彼女はたぐさんの趣味を持っていきます。ハイキング・ロッククライミング・スイミング・スノーボーディング・太鼓も。昨年は、メーガンさんやほかのA.L.Tの人たちと富士山に登つたんですよ！

そんな彼女はよく福井市に行くのですが、住むのなら環境がいい大野市の方が好きだそうです。

また、数えられないくらいたくさんの方に国に行っているんですよ！将来何になりたいかはまだ決めてないのですが、イギリスに帰つたら小学校の先生になれたらいいなと思つているそうです。

リポーターの独り言



皆さん読んでみて、外国の人につ

いてどう思われたでしょうか？話を聞くと、いろんなことが聞けますよね！英語で試験のためだけではなく普通に人が使う言語の一つで、コミュニケーションツールですよ。だから、「聞く」や「話す」の英会話もあると思います。

僕は、外国の方と話すときは「文法を間違つちゃいけない」とか「Rが発音できない」とか「相手の話が聞き取れなかつたらどうしよう」などなど、いっぱい不安材料があつて「結局は話さないのが一番・・・」っていつも思つていました。でもよく考えてみると、外国の人がたどたどしい日本語や間違つた日本語を使つても、聞いている側は別に怒つたりしないと思つし、またそのような人の方が、嬉しかつたりもします。

日本にいて日本語だけでできれば生きていくにも困らないので、特に重要性は感じませんが、今日どどんと国際化が進んでおり、たくさんの方で英語が話されています。異文化交流をするとか文化や習慣などの違いで戸惑つことがあります、お互いが尊重し歩み寄ることで交流の輪が広がり、人生をより楽しくし、広い意味では世界平和への第一歩が築けるのでは？と思います。

今回のレポートでは三人の方に取材協力をお願いし、優しい方ばかり

で快く引き受けていただき、この場をもつてお礼をさせていただきます。ありがとうございます。ほかに、大野市に住んでおられるA.L.Tや外国人の方がいらつしゃいます。どこかで見掛けられたときは、ぜひ声を掛けてみてくださいね。きつと、笑顔を見せてくれると思います。

Life is to be fortified by many friendships.
To love and be loved, is the greatest happiness of existence.

Sydney Smith

※人生とは厚い友情によって豊かになりうるものだ。人を愛し愛されることが、生きていく上での幸福である。(大野市訳)



市民のページ

音色に温かみ響かせて



富田篠笛クラブは平成十七年四月にメンバー五人で結成、現在は九人で活動しています。

指導者の松村秀彦さんは、元富田小学校の校長先生で青葉の笛保存顕彰会に所属しています。子供たちに素朴で優しい音色を持つ篠笛の魅力を知ってもらおうと、小学校のクラブ活動として篠笛を教えていました。退職した後も引き続き教えてほしいという児童の熱心な声を受け、クラブを結成しました。

隔週の水曜日に、富田公民館で正確なリズムときれいな音色を出せるよう、基礎を重視した練習をしています。

松村さんは「篠笛は同じ指使いでも吹き方で音の高さを変えることができ、違つ指使いでも同じ音が出せる特徴があります。そこが難しいところなので、メンバーにはまず技術をしっかりと高めてもら

いたいですね。それから演奏する曲が持っている楽しさや悲しさなどの内面がわかってもらえたら」と語ってくれました。

グループを結成した年から毎年富田地区の敬老会で練習の成果を発表しています。昨年は童謡や子守歌のほか「荒城の月」や「月の砂漠」などおなじみの曲を演奏。会場のお年寄りが笛に合わせて歌ってくれたそうです。

小学校のクラブ時代から続けている川田愛さんは「母が篠笛など日本の楽器に興味があつて、家で演奏するととても喜んでくれます。今は息継ぎと高い音がうまく出せるよう練習しています。篠笛は普段学校で使うリコーダーと違い、竹でできていて、一本一本手作りなので温かみがあつていいですね」。土田知美さんは「松村先生が演奏するのを聞いて興味を持ちました。

あなたも紙面に参加しませんか。希望する方は、
情報広報課まで ☎66・1111



最初は思い通りの音が出ず難しいと思いましたが。その分、一曲演奏できた時はとてもうれしいですね。いつかは先生のように吹けるようになりたいです」と話してくれました。

素朴で優しい音色が魅力の篠笛を演奏してみたいという方は、代表の松村さん（☎090・8966・2734）まで連絡してください。

※3月号の「グループ登場」で誤りがありましたのでおわびし訂正します。長田博之さん→長田博幸さん



中村 寛太さん（上庄小5年）

中村さんは、県版画コンクールで最高賞の「福井棟方賞」を受賞しました。小学生の部で4万1257点の応募の中で、木と空間の緊張感、鳥の生き生きとした様子を感性豊かに表現した点などが評価されました。

—この作品を作った経緯は

図工の授業に、びっくりしたことや心に残った出来事を題材に版画を彫りました。遊んでいた時に見た鳥の事を思い出して、しっかりと彫る部分と残す部分をバランスよく仕上げるようにと、先生に教えてもらって作りました。



—気をつけた点などは

彫刻刀を変えたり、彫る方向を変えたり、いろいろと工夫しました。鳥の目や足の部分などが細かくて苦労しました。

—受賞した時の周りの反応は

おじいちゃんは、朝新聞で見つけてとても喜んでくれました。学校では朝の会で先生がみんなに新聞に大きな字で僕の名前が出ていたの知らせてくれて、びっくりしていました。同じクラスの友達も銅賞に入賞したのでクラス中が盛り上がりました。

表彰式の時は、最前列の真ん中に座っていました。一番最初に名前を呼ばれたのと、人がいっぱいいたのでとても緊張しました。



「鳥を見つけた」

県版画コンクールで最高賞
感性豊かに鳥生き生き表現

新着図書

【一般小説】

ラスト・イニング（あさのあつこ）カラ売り屋（黒木亮）
かげろう（藤堂志津子）記憶の書（ジエフリーエフリー・フォード）

【ノンフィクション】

ひと目でわかるWindows Vista
ホーム編ビジネス編（ジャムハウス）言葉の歳時記（榎末知子）林住期（五木寛之）石文（大築よしのり）

【児童図書】

世界の祭り大図鑑 バレーボール（こどもくらぶ編）月光のコパン（舟崎克彦）がんばれ、ヘンリーくん（ベバリイ・クリアリー）ラモーナとあたらしい家族（ベバリイ・クリアリー）

【絵本】

影ぼっこ（マーシャ・ブラウン）はるかぜのほねほねさん（にしむらあつこ）とびねこ・ヘンリー（エリック・イングラハム）



読書のススメ

『ブライディさんのシャベル』
レスリー・コナー 文
メアリー・アセリアン 絵
千葉茂樹 訳
BL出版 刊

この物語は、アメリカ開墾時代に一人の若い女性が、ヨーロッパから一本のシャベルを持って船に乗り込む場面から始まります。シャベルは、船の中では体を支えてくれ、降りる時は荷物をつく棒になりました。畑仕事や出産、子育てにも大活躍しました。人生で一番苦しいことから立ち直れたのもこのシャベルのおかげでした。一生付き合えるものと出会える幸せを描いた本です。新しい生活をスタートさせる方に特にお勧めします。



奥越に春呼ぶ演奏

「奥越前に春をよぶ音楽会」が2月25日、学びの里「めいりん」で開かれました。本市在住のバイオリニスト松谷由美さんと京都市交響楽団員による優雅な演奏の数々に、約300人の聴衆は魅了されていました。

食生活見直そう

何をどれだけ食べれば良いのかを実際に体験してもらう「健康ランチバイキング」が2月25日、保健センターで開かれました。食生活改善推進員協議会が毎年開催しているもので、参加した50人は自分に必要な食品を考えながら選んでいました。



みんなで「すわるピクス」

学びの里「めいりん」で2月14日、大野公民館のすわるピクス教室受講生と有終西小児童約90人が一緒に“体育の授業”を受けました。これは、いすに座ったまま体操する「すわるピクス」を通して世代間交流を図ろうと初めて行われたものです。

5周年記念で講演

トゲウオの研究で知られ、本願清水イトヨの里館長で岐阜経済大学教授の森誠一氏による講演会が3月9日、学びの里「めいりん」で開かれました。イトヨの保護について、生物という学術面からと身近な生き物としての両面から考えるべきと語りました。



話題のひろば



(写真上 2月3日阪谷公民館)
豆腐やカボチャの入った白玉団子を作るため、材料を混ぜ合わせるさくらんぼ幼稚園の園児

(写真右 2月17日上庄公民館)
自分で種をまいて育てた大豆を油で揚げ、みつをからめてきな粉をまぶす「雪ん子豆」を作る上庄保育園の園児



料理って楽しいな

「食育」体験イベントが阪谷、上庄の両公民館を会場に開かれました。参加したさくらんぼ幼稚園と上庄保育園の園児は、親子で協力しながら料理の楽しさを肌で感じていました。



ドッジボールで交流

気軽に楽しめるドッジボールを通して交流する大会が2月18日、エキサイト広場で開かれました。5・6年男子と全学年混成の部に37チーム約320人の児童が参加。相手の投げるボールに当たらないよう、素早く身をかかわっていました。

ハーブと詩「融合」

ハーブ奏者広部正雄氏の音色に合わせて、詩人藤井則行氏が自身の詩を語るイベントが2月17日、学びの里「めいりん」で開かれました。観客は、美しい音色にのって語られる詩や童話に聞き入っていました。



菜の花ご飯



材料（一人分）

- ・米 90g
- ・卵 30g
- ・ナバナかミズナ 20g
- ・ニンジン 7g

（材料などの分量は、給食の献立に基づいています）



作ってみよう

【まず】

米は塩を1.4g、酒5gを入れて炊く。卵は砂糖0.3g、塩0.2g、油1gを入れていり卵に。ナバナかミズナは塩1gを加え、色よくゆで細かく切る。ニンジンは小さく切って、塩0.2gを加え、ゆでる。

①ニンジンと青菜を良く水切りし油でさっといためる

②炊けたご飯にいり卵と野菜を混ぜる

達人のワンポイントアドバイス

青菜はゆですぎないようにして、少し歯ごたえを残すとおいしくなります。水切りをしっかりとしないとご飯がべちゃっとするので注意。

（学校調理師

山腰とし子さん）



このコーナーでは、子供たちの健康を支えている給食の献立と、伝統的な郷土の味・食文化を紹介していきます。今月は「菜の花ご飯」です。

給食からもう一品

市民のうごき

平成19年3月1日現在

世帯数	12,256世帯（-3世帯）
人口	39,180人（-36人）
〈男〉	18,723人（-12人）
〈女〉	20,457人（-24人）

◆2月中の内訳

転入	62人	出生	28人
転出	96人	死亡	30人

の取材中、作ったお菓子をつまんで食べる女の子に「おいしい？」と聞くと「甘いよ」と一つくれました。食育の大切さが注目される中、子供に人気の給食レシピや残したい郷土の味を紹介するコーナーがスタート。誰もが簡単に作れるメニューなので、男性もチャレンジしてみてください（林）



編集後記

今月から紙面を一部リニューアルしました。どういった印象を持たれたでしょうか。子供たちの食育体験

桜花らんまんの季節。いよいよ新年度の幕が上がった。とは言え、暖冬の末の春である。どこか気分も一新したい▼一方、こちらは待ちわびた春を迎えたピカピカの一年生たち。夢と希望に胸もふくらむ。本市では、今春二百九十六名が晴れて小学校の門をくぐる▼これは、ある入学式で校長先生が披露した幼少時の思い出話である。友人からやると借りた本を兄に破られ途方に暮れていると、母親が小言一つ言わずご飯粒を練り、丁寧に破れを繕ってくれた。弁償もまならず、その夜母親に連れられ友人宅へ謝罪に。「どうか勘弁してください」。母親は土下座し、何度も頭を下げた。その道中、前を歩く母の背がとても温かく心強く思えたこと。土下座する姿に涙があふれて止まらなかったことを静かに語り「子を想う親の気持ちは、いつの時代も同じです」と言葉を結んだ▼本当にそうだろうか。一体どれだけの親が、捨て身でわが子に何かを教え、言葉少なくとも肝の据わった凛々しい背中を示せているだろう▼現在、学校評価が声高に叫ばれ、年々具体化の一途にある。しかし、評価されるべきは学校ばかりではない。学校評価の中に、地域や家庭の評価が追隨していることも謙虚に受け止めなくては。教育は形ではない。心である（羽生）



暖冬の末の春である。どこか気分も一新したい▼一方、こちらは待ちわびた春を迎えたピカピカの一年生たち。夢と希望に胸もふくらむ。本市では、今春二百九十六名が晴れて小学校の門をくぐる▼これは、ある入学式で校長先生が披露した幼少時の思い出話である。友人からやると借りた本を兄に破られ途方に暮れていると、母親が小言一つ言わずご飯粒を練り、丁寧に破れを繕ってくれた。弁償もまならず、その夜母親に連れられ友人宅へ謝罪に。「どうか勘弁してください」。母親は土下座し、何度も頭を下げた。その道中、前を歩く母の背がとても温かく心強く思えたこと。土下座する姿に涙があふれて止まらなかったことを静かに語り「子を想う親の気持ちは、いつの時代も同じです」と言葉を結んだ▼本当にそうだろうか。一体どれだけの親が、捨て身でわが子に何かを教え、言葉少なくとも肝の据わった凛々しい背中を示せているだろう▼現在、学校評価が声高に叫ばれ、年々具体化の一途にある。しかし、評価されるべきは学校ばかりではない。学校評価の中に、地域や家庭の評価が追隨していることも謙虚に受け止めなくては。教育は形ではない。心である（羽生）